

学会活動促進セミナー



学会表彰委員会について

- **高良記念研究助成** (2025年3月募集開始、同6月エントリー締切予定)
- **榎本記念賞** (2025年4月募集開始、同6月エントリー締切予定)

学会表彰委員会
眞鍋和博

高良記念研究助成について

- 高良記念研究助成は、本学会に尽力された故・高良和武(こうら・かずたけ)氏(学会初代会長)のご寄付をもとに、先生のご貢献を記念し、平成19年度に「高良記念研究助成」として創設。
- これから研究をスタートする方に助成することで、インターンシップ研究のすそ野を拡大する。

高良記念研究助成について

1. 応募資格と助成対象

- 応募資格者（研究代表者）は、本学会の個人会員（学生会員を含む）および法人・団体会員とし、単独および共同研究を申請できます。共同研究の場合、研究代表者以外研究分担者に本学会会員以外の者の参加を認めます。ただし、研究分担者が非会員の場合、助成採択後に本学会の個人会員（学生会員を含む）あるいは法人・団体会員になることが条件となります。
- 助成対象の研究課題は、学術的研究のほか企業等のインターンシップの動向や取り組みなど実践的研究、シンポジウムおよび公開講座等の研究成果や普及活動を含みます。特に、大学院生（年齢不問）、インターンシップに関わる実務家など、新たにインターンシップに関する研究をスタートする方、複数会員による共同研究の応募を歓迎いたします。他学会や研究機関に研究助成申請を行った研究課題も助成対象に含めます。奮ってご応募ください。

高良記念研究助成について

2. 助成条件

- (1) 1件あたり10万円を上限とし、合計2件までの研究助成を行います。
- (2) 2024年度の助成期間は2024年10月1日～2025年9月30日です。
- (3) 助成金の使途は、研究実施に必要な図書・備品などの物品費、旅費・交通費、謝金、その他経費(消耗品費、通信費など)とします。物品費、謝金はそれぞれ合計金額の4分の3を限度とします。
- (4) 助成研究者は、研究終了後1ヶ月以内に研究報告書を提出し、研究成果を2025年度の全国大会で発表すること、研究年報へ投稿することを義務とします。

これまでの受賞

		受賞者氏名・所属	委員長
第1回	平成19(2007)年度	江口 彰 (北海道大学大学院生) 長尾博暢 (追手門学院大学)	那須幸雄
第2回	平成20(2008)年度	眞鍋和博 (北九州市立大学) 渡邊和明 (九州大学大学院生)	那須幸雄
第3回	平成21(2009)年度	河野志穂 (早稲田大学大学院生)	太田和男
第4回	平成22(2010)年度	田崎悦子 (北海道大学大学院生) 酒井佳世 (久留米大学 就職・キャリア支援課)	太田和男
第5回	平成23(2011)年度	高橋秀幸 (北海道大学大学院生) 手嶋慎介 (愛知東邦大学・助教)	椿 明美
第6回	平成24(2012)年度	鈴木 恵 (横浜創英大学看護学部・助教) 張 琳 (九州大学大学院生)	富田宏治
第7回	平成25(2013)年度	川端由美子 (新潟大学 教育・学生支援機構キャリアセンター) 松尾哲也 (愛知淑徳大学 キャリアセンター・助教)	眞鍋和博
第8回	平成26(2014)年度	五十畑浩平 (香川大学研究戦略室・特命助教) 傅 振九 (北海道大学大学院生)	牛山佳菜代
第9回	平成27(2015)年度	<該当者なし>	岸本喜久雄
第10回	平成28(2016)年度	川上あき (北海道大学 キャリアセンター・インターンシップ マネージャー) 坂巻文彩 (九州大学大学院生)	岡本信弘
第11回	平成29(2017)年度	櫻村真由 (独立行政法人国立高等専門学校機構東京工業高等専門学校・准教授) 岩井貴美 (近畿大学大学院生)	山口圭介
第12回	平成30(2018)年度	王 佳 (九州大学大学院人間環境学府・学術協力研究員)	牛山佳菜代
第13回	令和元(2019)年度	永川幸子 (四天王寺大学・講師)	牛山佳菜代
第14回	令和2(2020)年度	柴田仁夫 (岐阜大学)	古閑博美
第15回	令和3(2021)年度	宮田弘一 (尾道市立大学→静岡産業大学)	古閑博美
第16回	令和4(2022)年度	桑畑夏生 (宮崎大学・講師)	小林 純

18年間で
28名が
受賞!

第17回令和5(2023)年度

角光通子 (宇部フロンティア大学)

第18回令和6(2024)年度

安藤 奏 会員 (特定非営利活動法人ブランディングポート)

岡 靖子 会員 (琉球大学)

川端 千鶴 会員 (北海道大学)

審査基準 5項目

(既存・先行研究に対する)革新性

(研究実施に向けた)実現性

インターンシップ発展への予想される貢献度

人材育成への予想される貢献度

企業・団体・地域に対する予想される貢献度

榎本記念賞について

- 榎本記念賞は、初代関西支部長を務められた榎本淳子氏（元大阪経済大学教授）のご寄付をもとに、インターンシップの発展と高度化を願い、「秀逸なインターンシップ」事例の収集を目的として創設。
- 各支部からの推薦をもとに4件を「秀逸な事例」、1件を「特に秀逸な事例」として表彰。
- 2015年に第1回表彰を実施。

楨本記念賞の選考について

- ・審査基準は6項目。

制度・組織

内容

受入先との連携

醸成される力

受入先からの評価

受講生の評価

- ・審査は学会表彰委員会にて実施。理事会にて承認を経て公表。
- ・各審査員の評価から「特に秀逸な事例」「秀逸な事例」を表彰。
- ・次回表彰は2025年9月大会

これまでの受賞

第1回 2015年

<最も秀逸な事例>

京都産業大学

「キャリア形成支援プログラムにおけるインターンシップ」

<秀逸な事例>

亜細亜大学

「アジア夢カレッジ-キャリア開発中国プログラム」

嘉悦大学 ビジネス創造学部

「実践の場で学ぶインターンシップ教育」

東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻

「革新的インターンシップモデルの構築と実践(プラクティカールスクール)」

小樽商科大学 商学部

「商大性が小樽の活性化について本気で考えるマジプロ」

立命館大学

「文理連携型コーオプ教育(総合大学モデル)」

北九州市立大学

「地域創生実習」

第2回 2017年

<最も秀逸な事例>

近畿大学

「低学年インターンシップ教育の取り組み評価～近畿大学を事例として～」

<秀逸な事例>

九州インターンシップ推進協議会

「産学官連携による地域の人材育成」

和歌山大学

「インターンシップ実践例と質を向上するための仕組みづくり～学生向け・企業向けの

ワークシートの開発～」

西九州大学

「体験型学修を通じてDPを具現化する取組～西九州大学におけるインターンシップの

位置づけという観点から～」

ものづくり大学

「インターンシップ事例報告～長期40日インターンシップと学生の将来についての一考

察～」

第3回 2019年

<最も秀逸な事例>

NPO法人ETIC.(エティック)

「地域との連携強化とインターンシップの今後のあり方」

<秀逸な事例>

立命館大学

「大学の世界展開力強化事業 産学国際協働PBLの長期インターンシップ」

北九州市立大学

「北九大オリジナルの課題解決型海外インターンシップ」

北海道教育委員会

「小中高校一貫ふるさとキャリア教育推進事業」

長崎短期大学

「大学教育再生加速プログラム『長期学外学習プログラム』」

第4回 2021年

<最も秀逸な事例>

工学院大学

「低学年インターンシップの導入等、多様なインターンシップの展開」

<秀逸な事例>

山形大学

「インストラクショナルデザインによるオンライン・インターンシップの設計と運営—産学連携による取組み—」

京都産業大学

「理工系専門教育に特化した中長期インターンシッププログラム『理工系コーオプ教育プログラム』の実践」

MiraiShip

「MiraiShipによるオンラインインターンシップ」

名古屋産業大学

「地域企業の魅力発見インターンシップ-地域企業を複数社体験するNPO法人G-netによるシゴトリップの事例より-」

第5回 2023年

<最も秀逸な事例>

熊本学園大学

「長期インターンシップにおけるプログラム設計と就業力～熊本学園大学における長期インターンシップの実践より～」

<秀逸な事例>

工学院大学

「大学とコーディネータ企業・受入企業による『低学年 専門人材育成インターンシップ』の共同開発」

大東文化大学

「正課に位置づけた5日間インターンシップの実践報告」

玉川大学

「理論と実践の往還的学修としての玉川大学教育学部におけるインターンシップ」

名古屋産業大学

「就職・キャリア支援・教育プログラムと連動した短期大学における初年時インターンシッププログラムの開発と実践—名古屋経営短期大学の未来キャリア学科の事例より—」

**会員の皆様の積極的なご参加を
お待ちしております。**